

岩手県こどもモニター

令和7年度 アンケート(第二回)

ほうこくしょ

報告書



令和7年12月

せいさくきかくぶ こうちょうこうほうか

岩手県 政策企画部 広聴広報課

1

アンケートの概要



アンケート期間
きかん

令和7年11月4日(火)～11月30日(日)

回答した人数
かいどう
じ�んすう

102人

答えてくれた人の割合

91.1% (102人／112人)

アンケート方法

インターネットによるモニター調査
ちょうさ

テーマ

1. ひとにやさしいまちづくりについて
2. 進学や就職だけではない自分の思いえがく未来について
3. 岩手県の「緑の広域計画」について
4. 地域で生活しつづけることについて



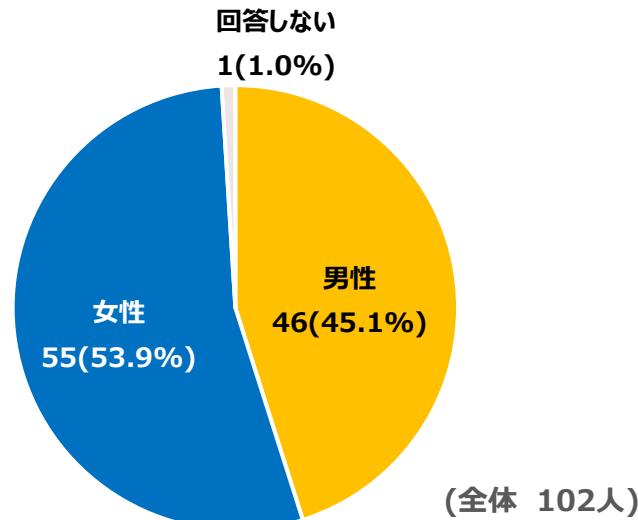
2

かいとうしゃ

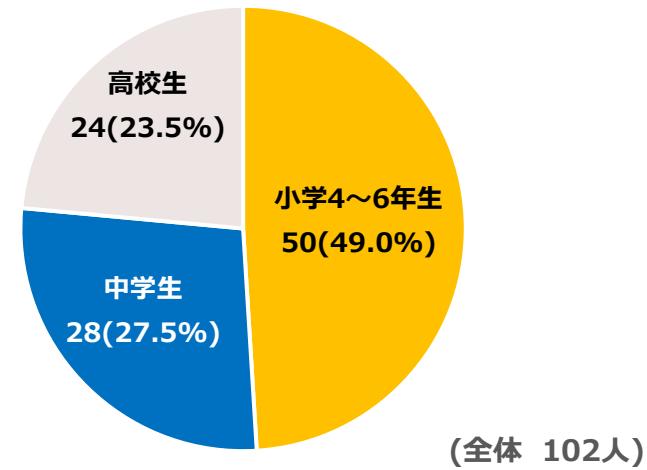
回答者について



性別



学年



	男性	女性	回答しない	計
小学4～6年生	24人	26人	0人	50人
中学生	12人	16人	0人	28人
高校生	10人	13人	1人	24人
計	46人	55人	1人	102人

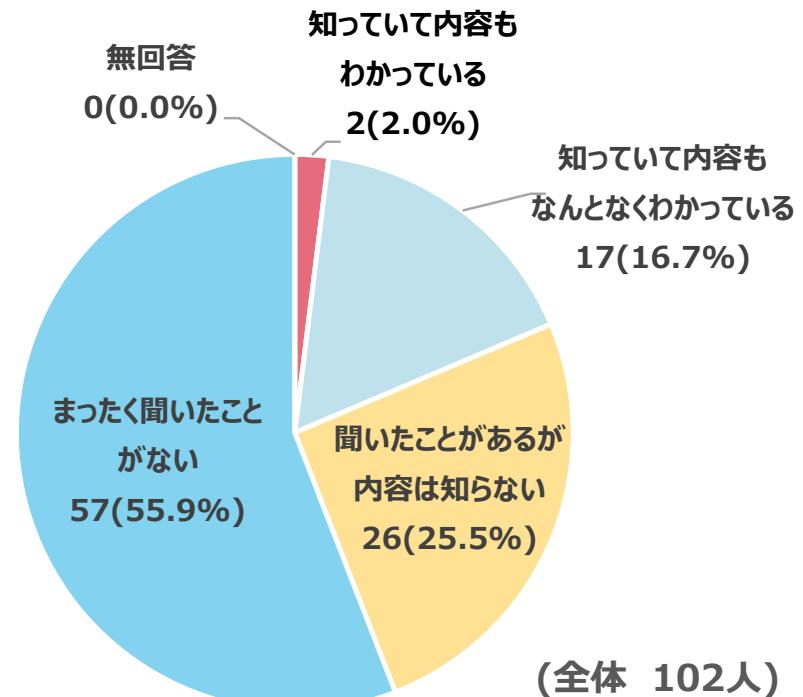




問1 岩手県の「ひとにやさしいまちづくり」について、知っていますか。

えら
(一つ選んでください)

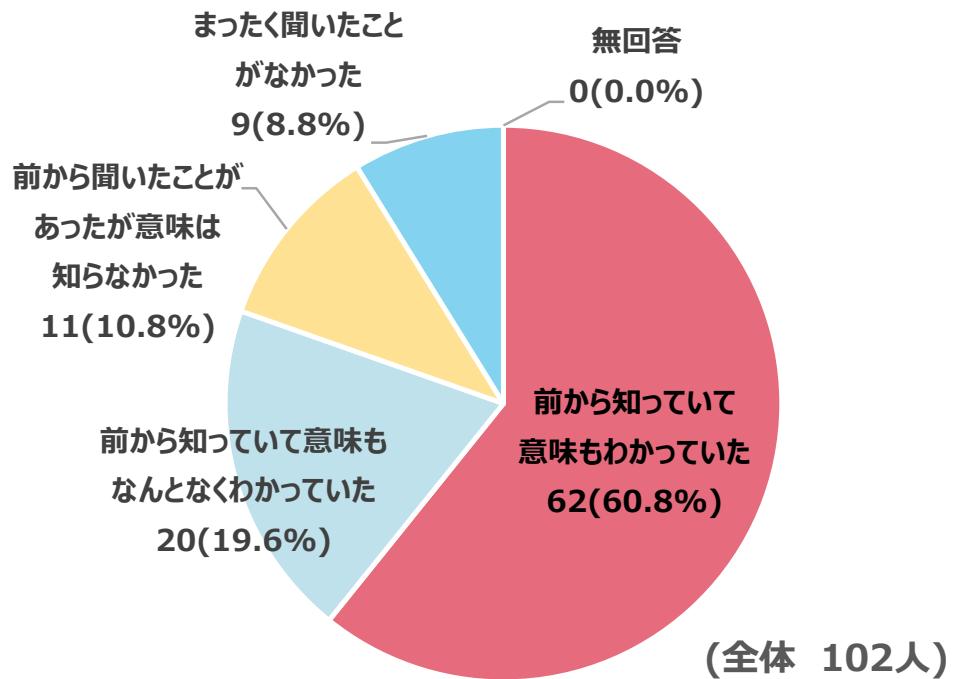
- 岩手県の「ひとにやさしいまちづくり」について、「まったく聞いたことがない」は57人(55.9%)と半数を超えていました。「聞いたことがあるが内容は知らない」という人も26人(25.5%)で、名前だけ知っているという人も一定数います。
- 一方で、「知っていて内容もわかっている」は2人(2.0%)、「知っていて内容もなんとなくわかっている」は17人(16.7%)で、内容まで知っている人はあわせて2割より少なく、多くの人にはまだ十分に広まっていないことがわかります。





問2 このアンケートに答える前、「ユニバーサルデザイン」について、どれくらい
知っていましたか。（一つ選んでください）

- 「ユニバーサルデザイン」について、「前から知っていた意味もわかつっていた」のは62人(60.8%)、「前から知っていて意味もなんとなくわかつていた」のは20人(19.6%)でした。およそ8割の人が言葉と意味をある程度知っており、多くの人に広まっていることがわかります。
- 一方で、「まったく聞いたことがなかった」は9人(8.8%)、「前から聞いたことがあったが意味は知らないかった」は11人(10.8%)でした。



3

調査結果

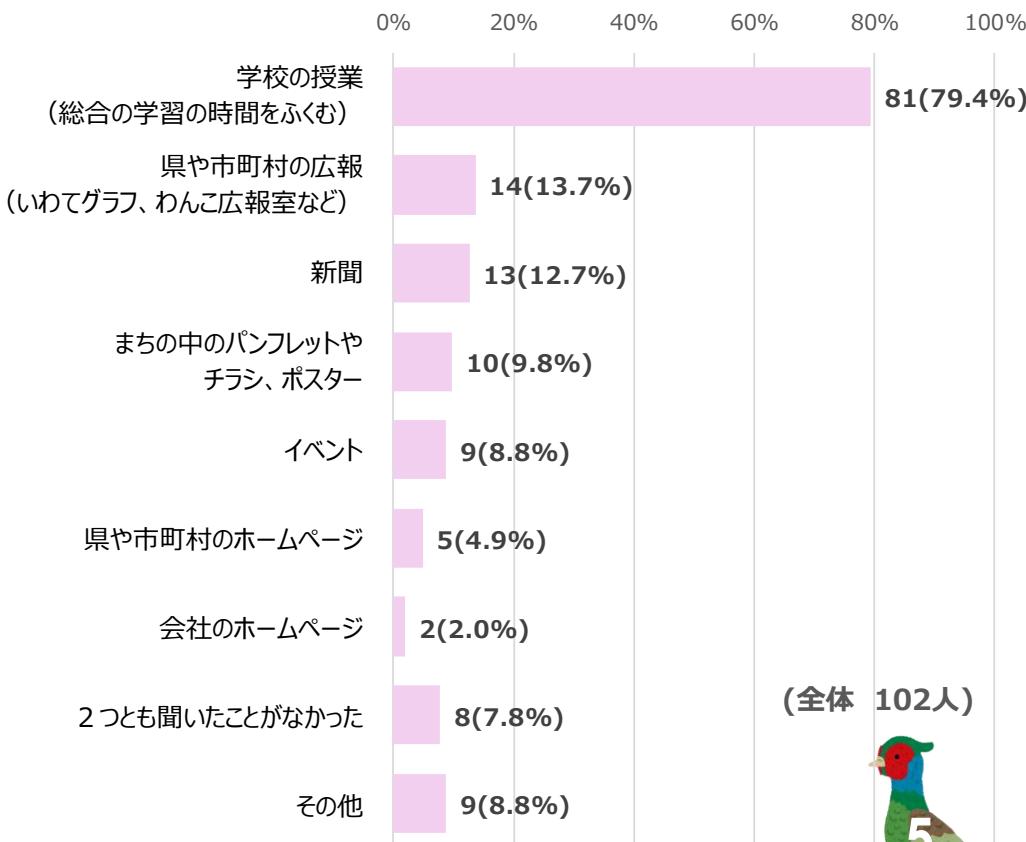
テーマ1：ひとにやさしいまちづくりについて



問3 「ひとにやさしいまちづくり」や「ユニバーサルデザイン」について知ったきっかけはなんですか。

えら
(いくつでも選んでください)

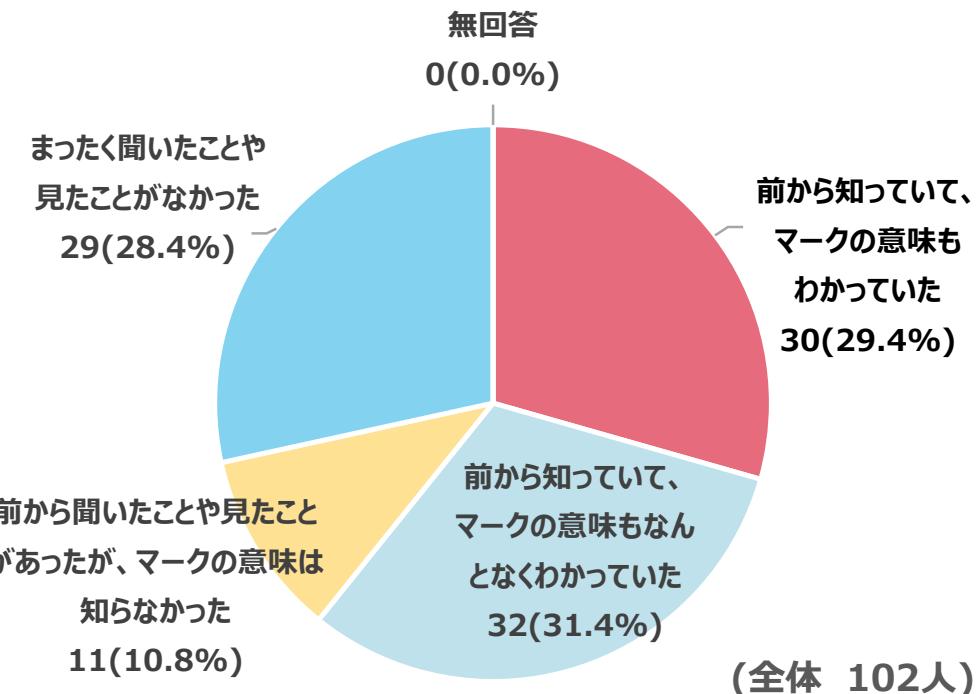
- 「ひとにやさしいまちづくり」や「ユニバーサルデザ
イン」を知ったきっかけは、「学校の授業」と答えた
人が81人(79.4%)と最も多く、ほとんどの人が、
学校での学びをとおして、これらの言葉にふれて
いました。
- このほか、「県や市町村の広報」が14人(13.7%)、
「新聞」が13人(12.7%)と、身近な読みものをと
おして知る人も多いことがわかりました。
- 「その他」では、『家族に障がい者がいる』、『家族に
教えてもらった』などの回答がありました。





問4 このアンケートに答える前、「ヘルプマーク」について、どれくらい知っていますか。(一つ選んでください)

- 「ヘルプマーク」について、「前から知っていて、マークの意味もわかつっていた」は30人(29.4%)、「前から知っていて、マークの意味もなんとなくわかつっていた」は32人(31.4%)で、あわせておよそ6割の人がヘルプマークの意味をある程度理解していました。
- 一方で、「前から聞いたことや見たことがあったが、マークの意味は知らなかつた」は11人(10.8%)、「まったく聞いたことや見たことがなかつた」は29人(28.4%)であり、4割近くの人にはまだ十分には知られていないことがわかりました。



3

調査結果

テーマ1：ひとにやさしいまちづくりについて



問5「ひとにやさしいまちづくり」について、あなたの考え方やよくなるといいと思うことがあれば自由に書いてください。

主なご意見

- ・ コロナで年々薄くなっている地域との関わりを回復させてほしい。地域とこどもたちとのつながりの再構築が「ひとにやさしいまちづくり」につながると思う。
- ・ 歩道が整備されていない道が多くて自転車に乗っているときに転びそうになることがよくあるので、自転車が通りやすい道を整備してほしい。また、岩手県のどの道でも車椅子が不便なく通れるようにした方がいいと思う。雪の時期は道路が凍らないように道路に電圧やあたたかい温泉水を流して溶けるように工夫すればいいと思う。
- ・ このアンケートを答えるまで知らなかったので、もっと知るイベントや特別授業などをしてほしい。
- ・ 古い施設では、バリアフリーが進んでいないので、車椅子の兄は行くことが難しい。車椅子で行けるようにしてほしい。
- ・ 外国人や障がい者、老若男女関係なく、いろいろな活動に参加したり、差別や偏見をなくしたりできたらいいと思う。
- ・ 昔ながらの街並みが残っているからか、街灯がないところや道の傾斜が急なところ、段差など、普段暮らす人が不便と感じるところが多いと思う。
- ・ 知らない人に声をかけて助け合うのは難しい。みんながマークのことをもっと知れば声をかけやすいと思った。
- ・ 積雪時に点字ブロックが埋まってしまっているため、視覚障がい者に危険。



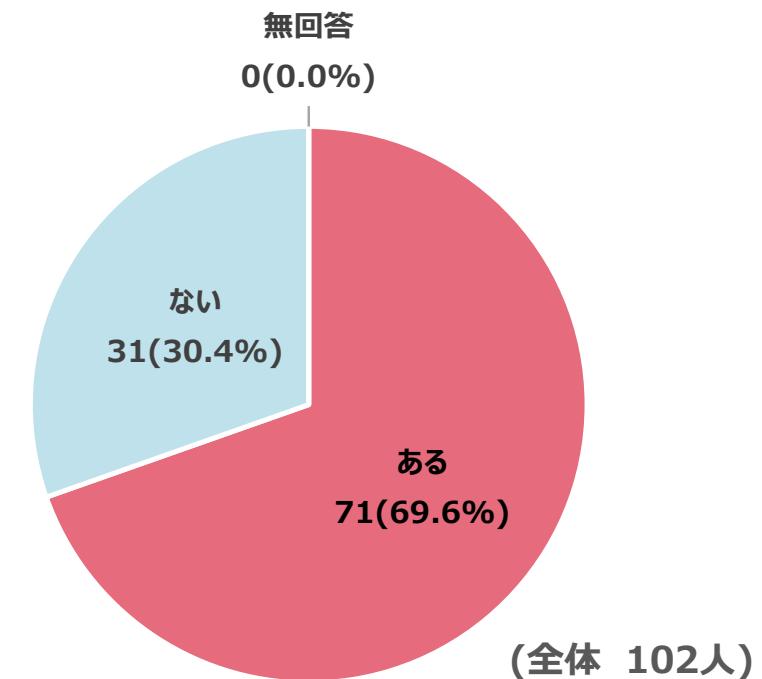
テーマ2 : 進学や就職だけではない 自分の思いえがく未来について



問1 これまでに将来のライフデザインについて考えたことはありますか。

えら
(一つ選んでください)

- 将来のライフデザインについて、考えたことが「ある」と答えた人は71人(69.6%)で、およそ7割の人が、自分の将来について一度は考えたことがあることがわかりました。
- 一方で、「ない」と答えた人は31人(30.4%)で、3人に1人くらいは、まだあまり将来のライフデザインについて考えたことがないという結果でした。



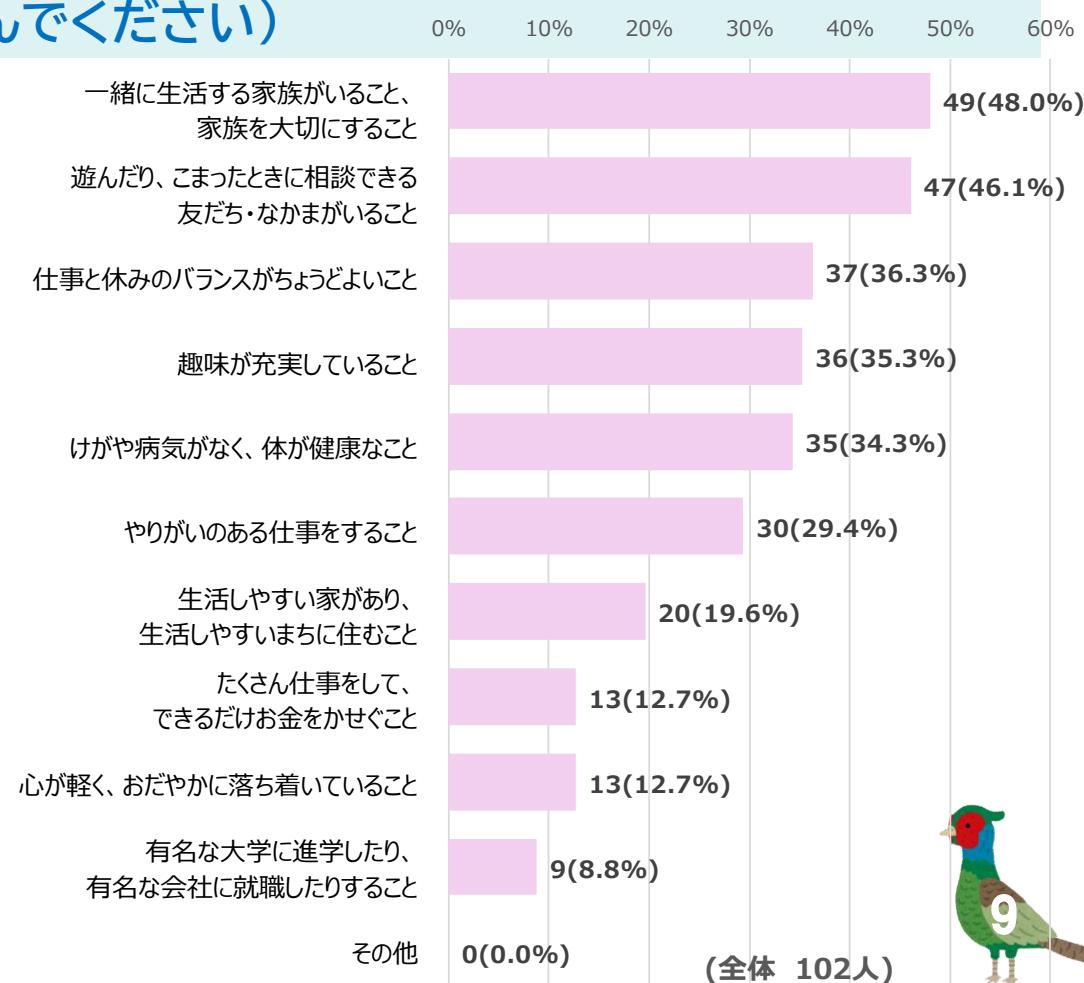
テーマ2 :進学や就職だけではない 自分の思いえがく未来について



問2 将来、自分が希望するライフデザインをかなえるために、どんなことが大事

だと思いますか。（3つまで選んでください）

- 自分が希望するライフデザインをかなえるために大事だと思うことは、「一緒に生活する家族がいること、家族を大切にすること」が49人(48.0%)と最も多く、ついで「遊んだり、こまつたときに相談できる友だち・なかまがいること」が47人(46.1%)となりました。家族や友だちなど、身近な人とのつながりを大事にしたいと思っている人が多いことがわかります。

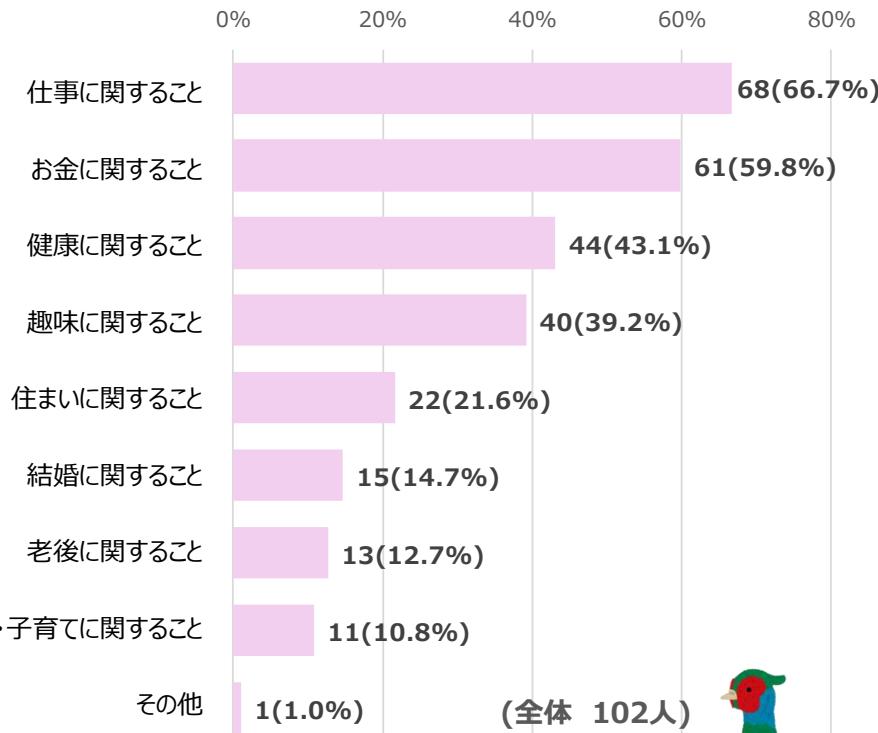


テーマ2 : 進学や就職だけではない 自分の思いえがく未来について



問3 将来、自分が希望するライフデザインをかなえるために、必要だと思う 知識・情報はなんですか。 (3つまで選んでください)

- 自分が希望するライフデザインをかなえるために必要なと思う知識・情報は、「仕事に関するこ^と」が68人(66.7%)と最も多く、ついで「お金に関するこ^と」が61人(59.8%)となっています。
- 一方で、「結婚に関するこ^と」や「老後に関するこ^と」、「妊娠・出産・子育てに関するこ^と」と答えた人は少なく、仕事やお金など、より身近な将来についての知識が大事だと考える人が多いことがわかりました。
- 「その他」では『人間関係を円滑に進める方法』という回答がありました。





テーマ2 :進学や就職だけではない 自分の思いえがく未来について

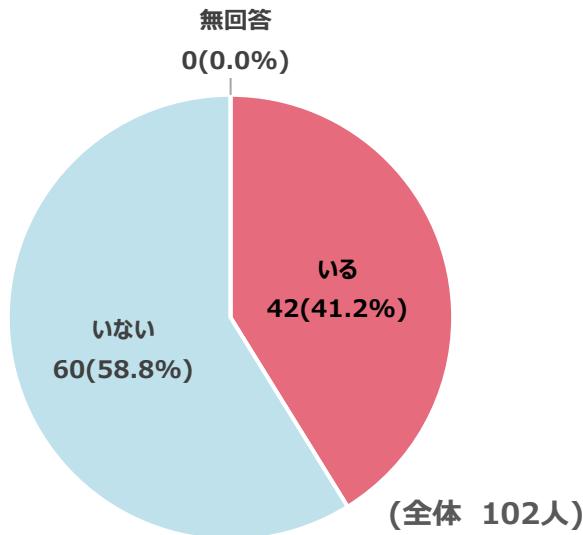
問4 自分のまわりや知っている人の中に、**将来**、この人の生き方や考え方を参考

にしたいと思う人はいますか。(一つ選んでください)

参考にしたい人がいる場合、だれか教えてください。

また、その人のどんなところを**参考**にしたいと思いますか。

- 生き方や考え方を参考にしたい人が「いる」と答えたのは42人(41.2%)でした。



生き方・考え方を参考にしたい人とその理由(抜粋)

- 近所の人:毎朝ごみ拾いをしたり、地域のイベントを主催したり、地域貢献をたくさんしているので、たくさんの人と関わり明るい生活をしているところを参考にしたい。
- 大谷選手:人間性や考え方を参考にしたい。
- 祖母:どんな時も相手を思いやり、相手のために行動できるところ。
- 父:夜中や休みでも仕事が入ると困ってる人のために頑張っているから。
- 部活の顧問:いつも前向きで困った時には手を差し伸べてくれる優しくて本当に人として尊敬できるところを参考にしたい。

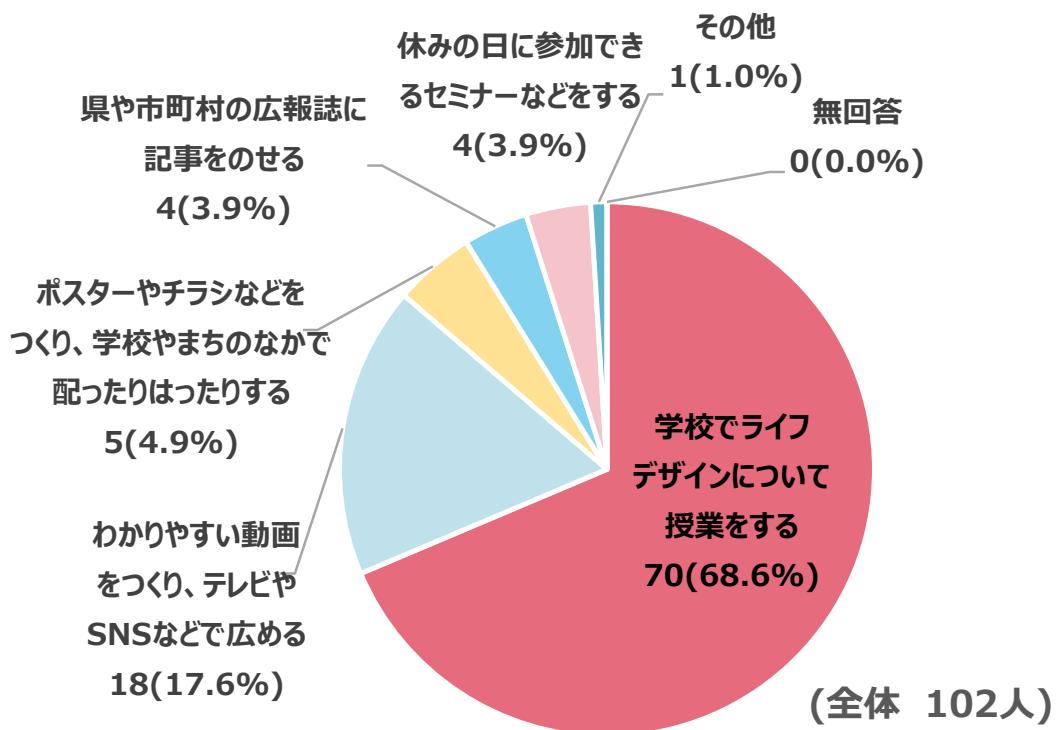


テーマ2 :進学や就職だけではない 自分の思いえがく未来について



問5 こどもや若者にライフデザインのことを知ってもらうために、どの取り組み がいちばんよいと思しますか。(一つ選んでください)

- ライフデザインのことを知ってもらうための取り組みについて、「学校でライフデザインについて授業をする」が70人(68.6%)と圧倒的に多く、およそ7割の人は学校で教えてもらうことがいちばんよいと考えていました。
- ついで、「わかりやすい動画をつくり、テレビやSNSなどで広める」が18人(17.6%)でした。



テーマ2 : 進学や就職だけではない 自分の思いえがく未来について



問6 ライフデザインについて、ほかにも何か意見がある場合は、自由に書いてください。

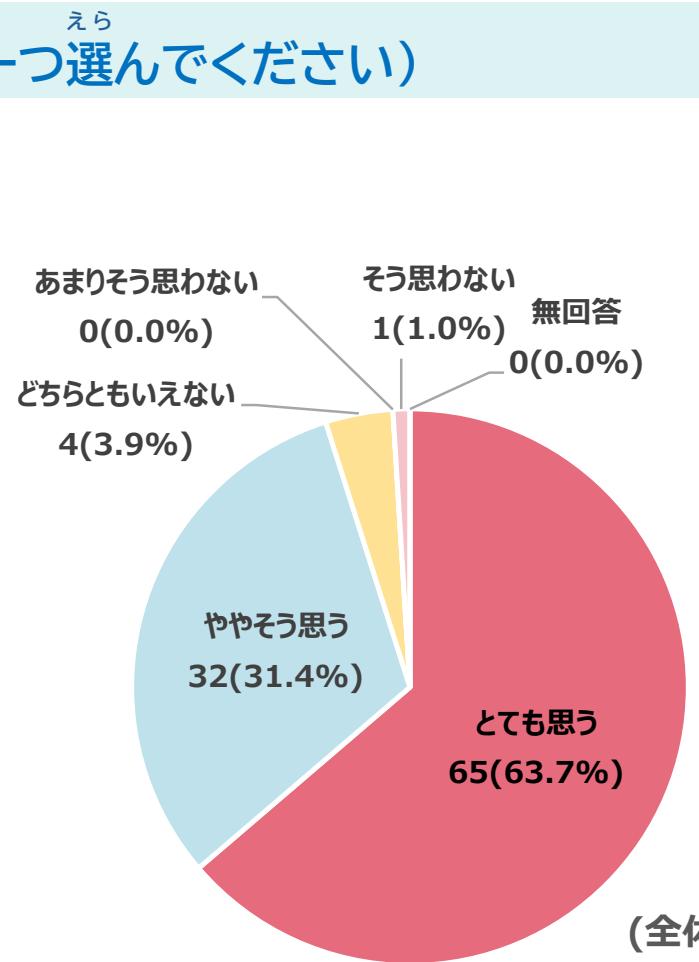
主なご意見

- ・ ライフデザインについて相談できるところがほしい。
- ・ 金融に関する知識は中学生くらいからでも学校の授業で詳しく教えてほしい。
- ・ 学校で毎年ライフデザインをたてる授業があれば、若い頃から人生について考えられるのではないかと思った。
- ・ AIの発達やライフスタイルの多様化によって、自分の将来を不安に思っている人がたくさんいると思う。これからたくさんの選択を迫られる学生に少しでも自信を持って将来を選べることができるような支援を考えてほしい。
- ・ 学生時代ライフデザインについて考える事は非常に難しい。学生時代に実践的かつ選択的な数週間の仕事体験等、その時に興味のある仕事を実際に体験してみないと、本当にやりたいことなのか、楽しいことなのか、苦労することなのか、お金はいくらもらえるのか等々を考えることができないと感じる。
- ・ 人生の先輩として、親や学校の先生などの身近な人以外にも詳しく話してくれる人がいたらもっといいと思う。
- ・ 幼いこどもたちから様々な年代の人たちが取り組める楽しいイベントを行う。



問1 岩手県は、緑が豊かだと思いますか。（一つ選んでください）

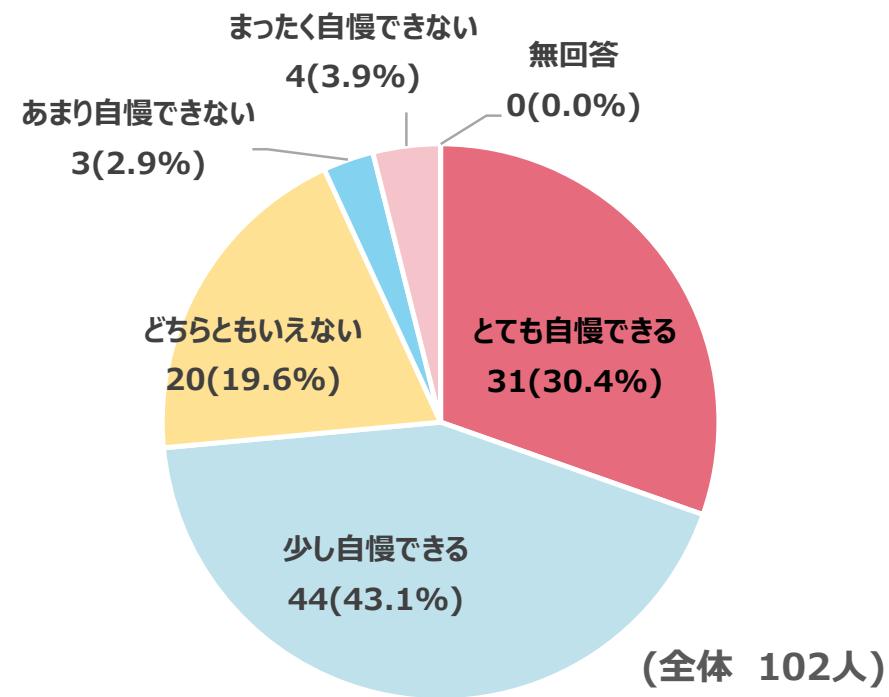
- 岩手県は緑が豊かだと思いますかについて、「とても思う」が65人(63.7%)、「ややそう思う」が32人(31.4%)で、あわせて97人(95.1%)が、緑が豊かだと思うと答えました。
- 一方、「あまりそう思わない」は0人、「そう思わない」は1人(1.0%)と少なく、ほとんどの人が、岩手県は緑の多いところだと感じていることがわかります。





問2 あなたが生活している地域(家や学校のまわり、ふだん通る道)にある緑のことをどう思いますか。(一つ選んでください)

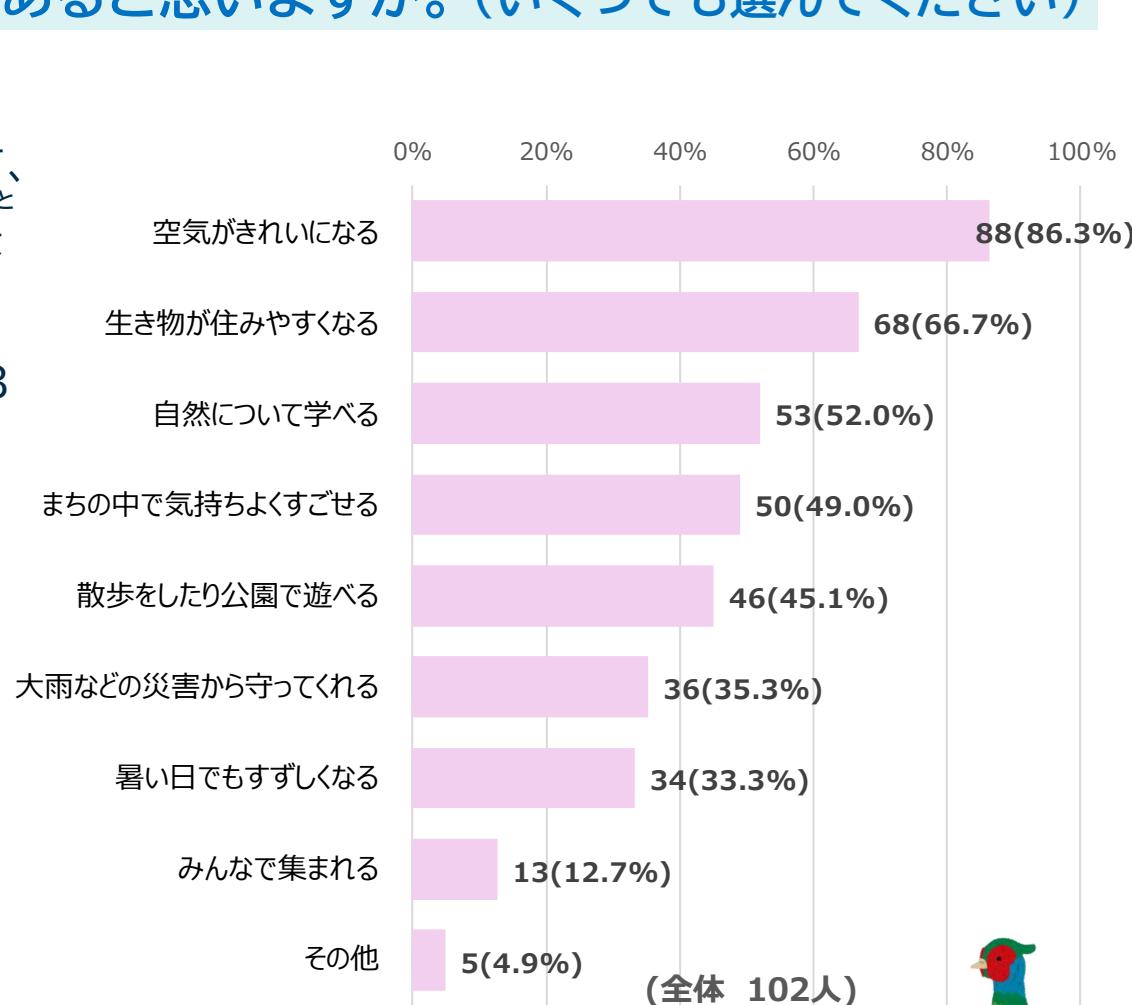
- 身近な地域にある緑について、「とても自慢できる」が31人(30.4%)、「少し自慢できる」が44人(43.1%)で、あわせて75人(73.5%)が自慢できることと答えていました。
- 一方、「どちらともいえない」は20人(19.6%)、「あまり自慢できない」が3人(2.9%)、「まったく自慢できない」が4人(3.9%)であり、およそ4人に1人は、自分の身近な地域にある緑についてあまり自慢できない、またはよくわからないと感じていることもわかりました。





問3 緑があると、どんなよいことがありますか。(いくつでも選んでください)

- 緑があると、どんなよいことがあるかについて、「空気がきれいになる」が88人(86.3%)と最も多く、ついで「生き物が住みやすくなる」が68人(66.7%)、「自然について学べる」が53人(52.0%)となりました。緑には、空気や生き物、くらしの安心、遊びや学びなど、さまざまなよいところがあると感じている人が多いことがわかります。
- 「その他」では、『地球温暖化対策になる』、『目の健康を守る』、『景観がよくなる』、『リラックスしてリフレッシュできる』、『心が落ち着く』という回答がありました。



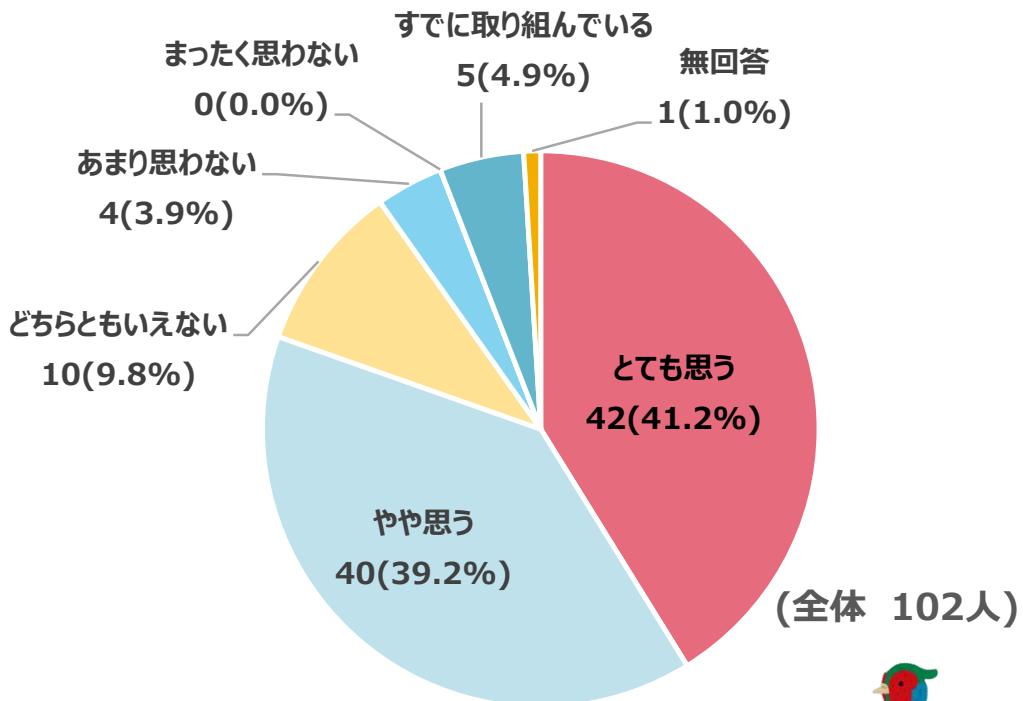


問4 あなたは、緑を守る、育てる取り組みをしたいと思いますか。

えら
(一つ選んでください)

すでに取り組んでいる人は、どんな取り組みをしているか教えてください。

- 緑を守る・育てる取り組みをしたいと思うかについて、「とても思う」が42人(41.2%)、「やや思う」が40人(39.2%)で、およそ8割の人が取り組みをしたいと考えていました。
- 「すでに取り組んでいる」と答えた人が実際に行っていることは、『緑の募金への参加』、『地域の企業の植林体験への参加』などのほか、『節電』、『学校でのヘチマの栽培』、『近所へは歩きか自転車で出かける』など、ふだんの生活の中でできる身近な取り組みをあげる人もいました。





問5 あなたが生活している地域(家や学校のまわり、ふだん通る道)の緑について
「こうなるとよいな」と思うことがあれば教えてください。また、そのために
みんなで何をしたらよいか、アイディアがあれば教えてください。

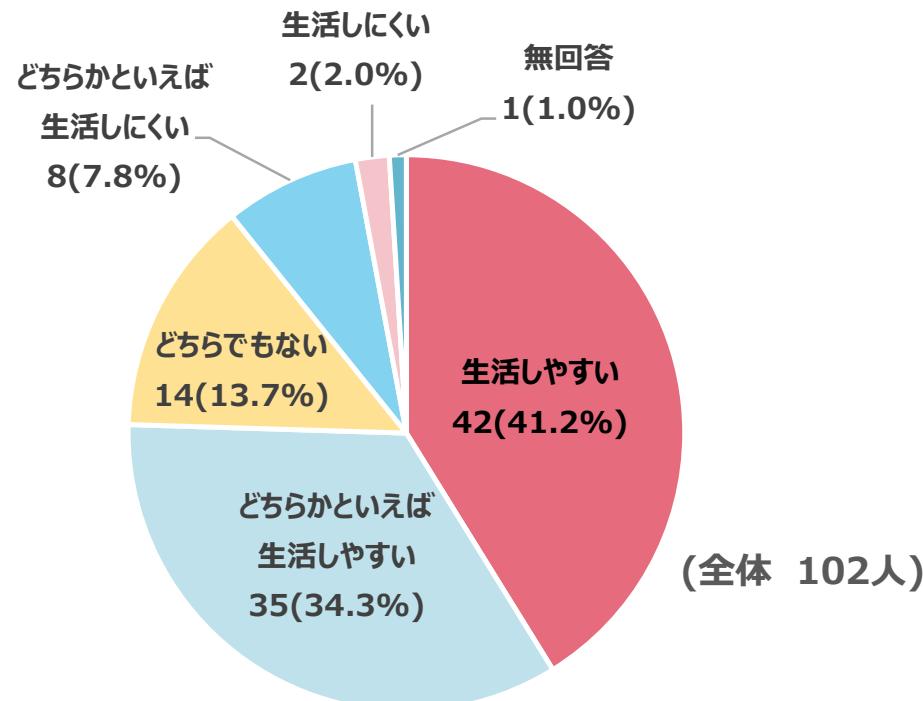
主なご意見

- ポイ捨てなどで緑が汚れているので、ゴミ拾いなどをする。
- 学校のまわりにデッドスペースがあるので、そこを利用して、用務員さんに任せるとではなく生徒自身が植物を育てるなどして、緑に関われたらいいと思う。
- ただ雑草や木が自由に生えているだけでなく、花壇などを作ったり、定期的に雑草を刈るなどきれいに整えると岩手県の自然が一つの観光地としてより自慢できると思う。
- 春や夏、秋は木の色どりがいいが、冬は少しさびしいから、冬はイルミネーションがあるといい。
- 最近はクマや蜂が多いけれど、緑を切ると自然がなくなるから、緑を切らないで対策できればいいと思う。
- 夏は木陰があるとうれしい。大きな木が危険ということで伐採されたため、炎天下の下校や待ち合わせがキツくなった。
- たくさん緑があるが、手入れがされていないため車道・歩道に枝がはみ出していることが多く危険。伐採を考えるのであれば、手入れをして維持することを目的としてほしい。
- 自然を崩さないようにみんなで守っていく活動があればいい。



問1 住んでいる地域は生活しやすいと思いますか。(一つ選んでください)

- 住んでいる地域の生活のしやすさについて、「生活しやすい」が42人(41.2%)、「どちらかといえば生活しやすい」が35人(34.3%)で、およそ4人に3人が、生活しやすいと感じていました。
- 一方で、「どちらかといえば生活しにくい」は8人(7.8%)、「生活しにくい」は2人(2.0%)で、1割ほどの人は、今の地域での生活に不便さを感じていることもわかりました。



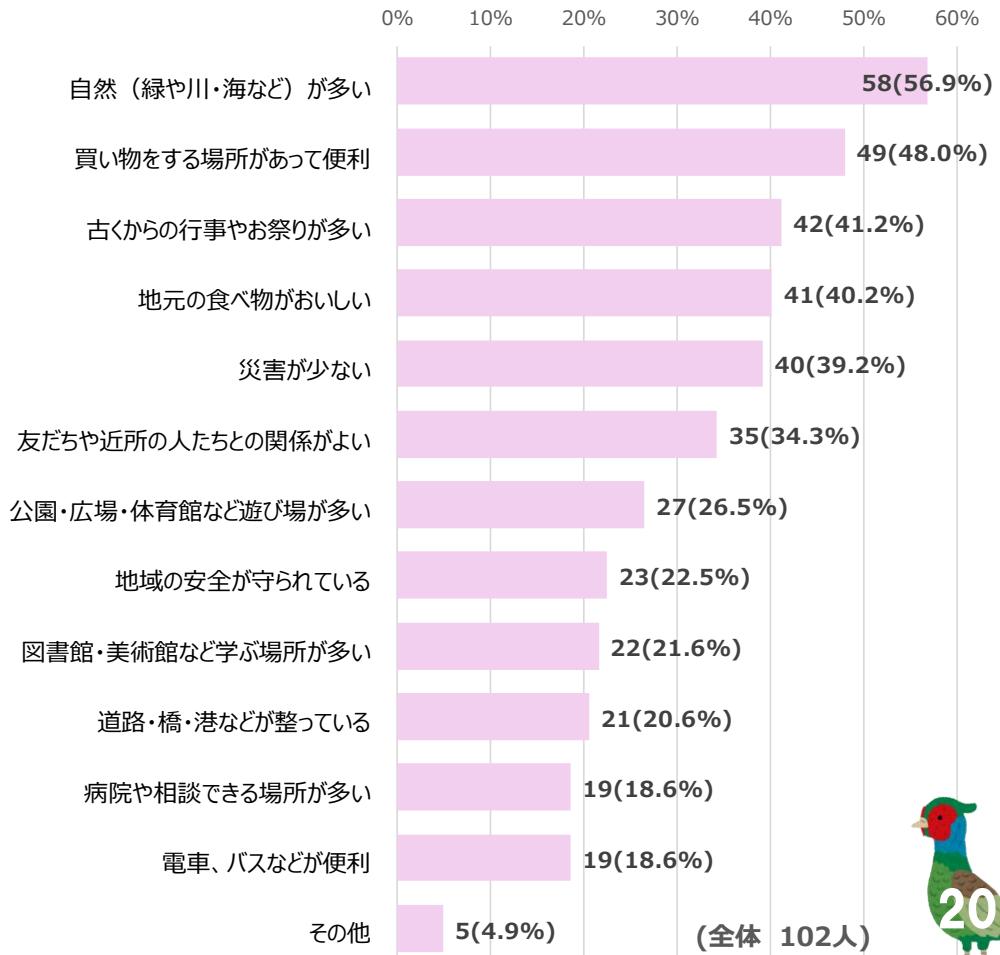


問2 住んでいる地域で生活していて「よかった」と思うことはなんですか。

えら
(いくつでも選んでください)

- 住んでいる地域で生活していて「よかった」と思うこととして、「自然(緑や川・海など)が多い」が58人(56.9%)と最も多くなりました。ついで「買い物をする場所があって便利」、「古くからの行事やお祭りが多い」、「地元の食べ物がおいしい」、「災害が少ない」の順でそれぞれおよそ4割から5割となりました。

- 「その他」では、『ほかの地域に自慢できる有名な場所がある』、『田舎で人もそこまで多くなく住みやすい』、『給食がおいしい』などの回答がありました。





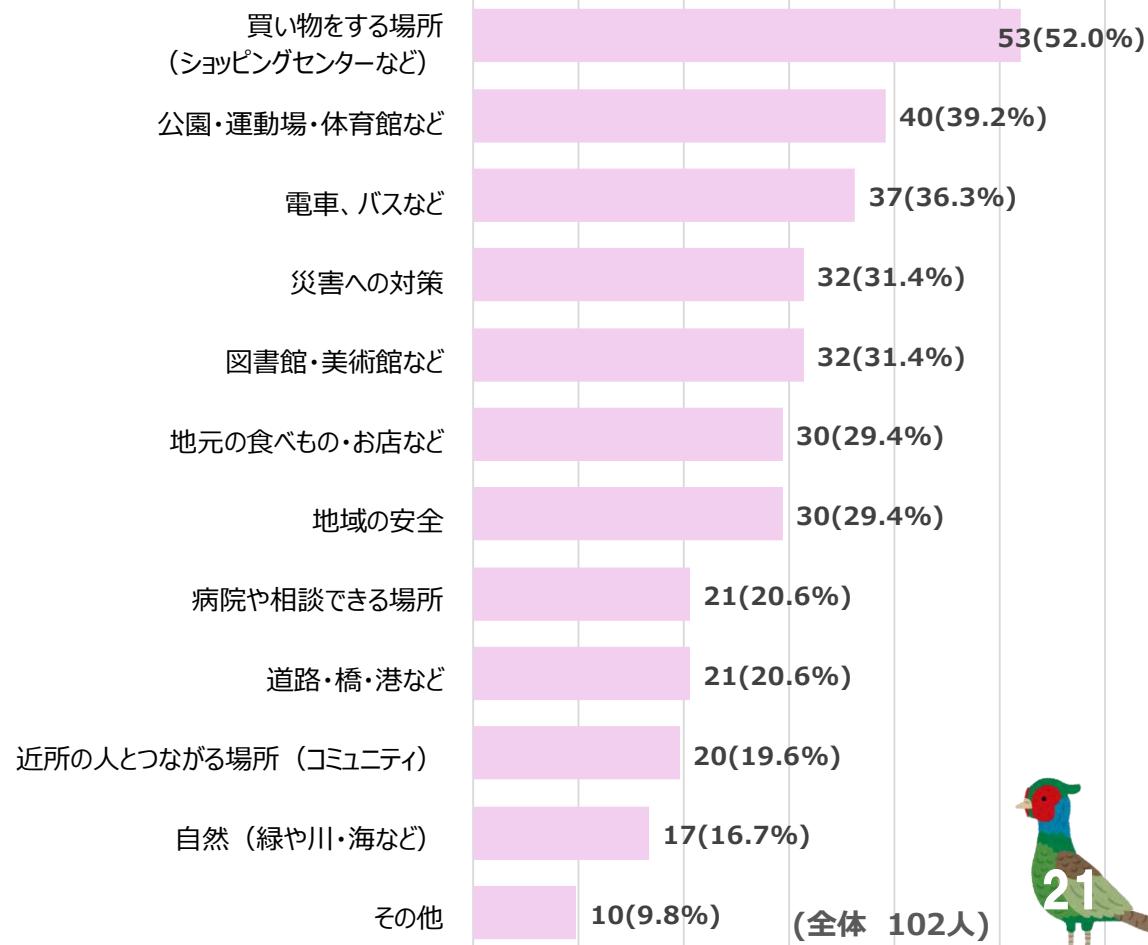
問3 今住んでいる地域で、さらによくしてほしいことはなんですか。

- 今住んでいる地域で、さらによくしてほしいことは、「買い物をする場所」が53人(52.0%)と最も多く、ついで「公園・運動場・体育館など」が40人(39.2%)、「電車・バスなど」が37人(36.3%)となっています。

- 「その他」では、『クマ対策』、『街灯をふやす』、『仕事をする場所』、『子どもたちだけで集まる場所』、『学生の交通手段』などの回答がありました。

(いくつでも選んでください)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

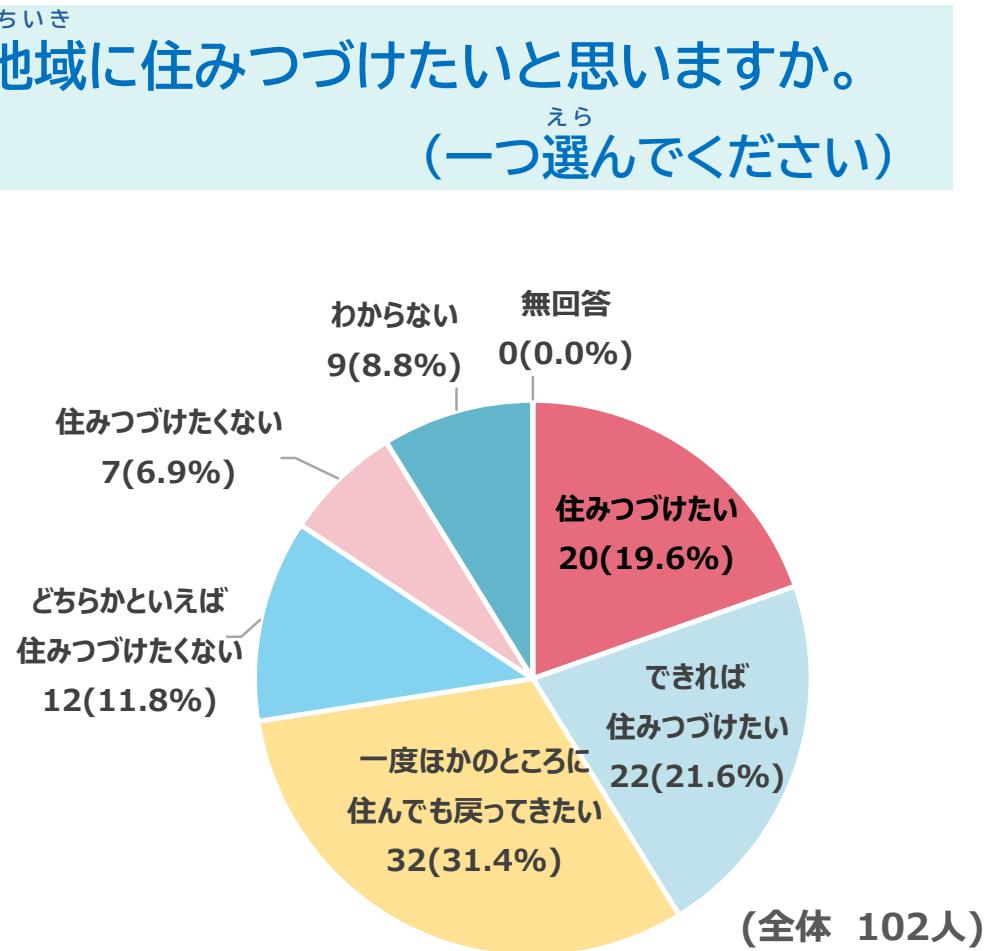




問4 大人になってからも今住んでいる地域に住みつづけたいと思いますか。

えら
(一つ選んでください)

- 大人になってからも今住んでいる地域に、「住みつづけたい」は20人(19.6%)、「できれば住みつづけたい」は22人(21.6%)、「一度ほかのところに住んでも戻ってきたい」は32人(31.4%)で、あわせて74人(72.6%)が、将来も今の地域に住みたい・戻ってきたいと考えていました。
- 一方で、「どちらかといえば住みつづけたくない」は12人(11.8%)、「住みつづけたくない」は7人(6.9%)と、今住んでいる地域にはあまり住みたくないと思っている人は2割近くとなりました。





^{ちいき}
問5 今住んでいる地域に住みつづけるため、どのような取り組みが必要だと
思いますか。自由に書いてください。

主なご意見

- こどもの意見やアイディアを聞く(学校でアンケートをとったりする)。
- 子育てしやすいよう、サポートを充実させる。こどもの遊び場(公園など)の整備。
- 地域のつながりを強化する。私の地域はどんどん地域のイベントが減っているので、大人の事情だけでもこどもの関わる機会を減らさないこと。
- 働く場所が増えたらいい。僕は農家になって、手をつけなくなった農地を活用できたらいいと思う。
- 交通の便をよくしたり、様々な種類の店を増やしたり、地域の文化財を生かしたイベントを行ったり、住民が地元に興味を持てて、住みやすくなるような取り組みが必要だと思う。
- 若い人が地元に残って働きたいと思える環境・広報活動、働き口を作るべきだと思う。
- バスや電車など交通の便をよくする。
- 高齢者のための移動販売を行う。フリースペースをつくる。
- 高校に通うのがとても大変で数十万かかると、周りの親などが嘆いている。そういう話を聞くと、私も大人になって、こどもが通学する際の費用について考えたとき、賃金がそこまで上がらない地方に住み続けるべきかと、とても悩む。地区(路線)基準に考えた学生への通学補助を検討してもらいたい。
- 今のこどもたちがずっと岩手に住んでいたいと思えるような岩手限定の取り組みやPRをしたら、住み続けやすいと思う。また、高齢化問題があるので、介護センターが多い方がいいと思う。
- 遊び場や若者が集える場所を作る。